

経済・金融 フラッシュ

9月マネー統計 ～投資信託の下落率が最大に

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

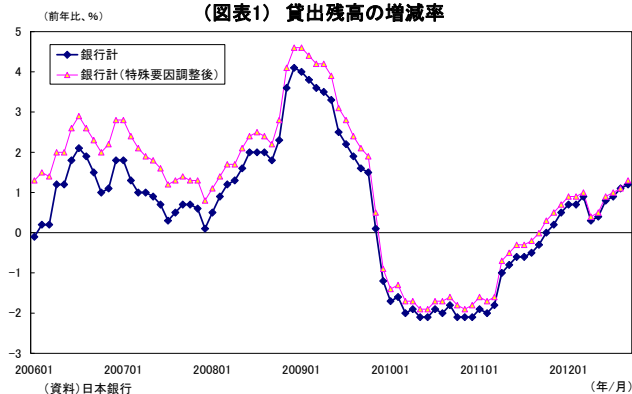
1. 貸出動向：5ヵ月連続で伸び率が拡大

日銀が発表した9月の貸出・資金吸収動向等によると、銀行貸出(平残)の伸び率は対前年 1.2%(前月は同 1.1%)と09年10月以来の高い伸び率になった。伸び率拡大は5ヵ月連続と増勢が徐々に強まってきている。業態別では、地銀が前年比 2.8%、都銀等が同▲0.3%と、依然地銀優勢の状況が続いている。

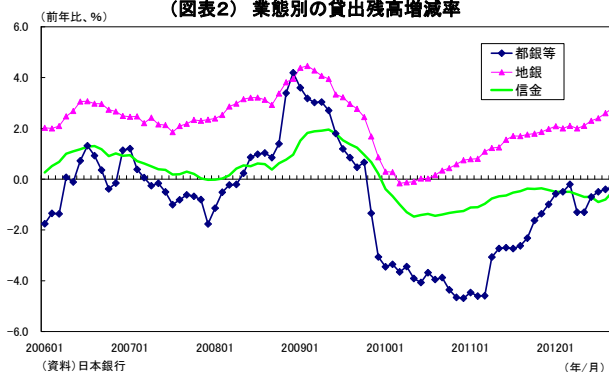
電力会社向けや M&A 絡みの資金需要が続いているとみられるほか、被災地での復興関連需要も地域間格差が出てきたとはいえ全体として堅調を維持している。また、長らく減少を続けてきた中小企業のマイナス幅が近頃縮小してきている点も明るい材料だ(図表 1～5)。

ただし、9月日銀短観でも確認されたように、世界経済の不透明感や長引く円高などで企業の景況感は厳しさを増している。また、日中関係の緊迫化なども景況感の下ぶれリスクになっている。銀行貸出は設備資金を中心に景況感の影響を大きく受けるため、引き続き警戒が必要な状況にある(図表 6)。

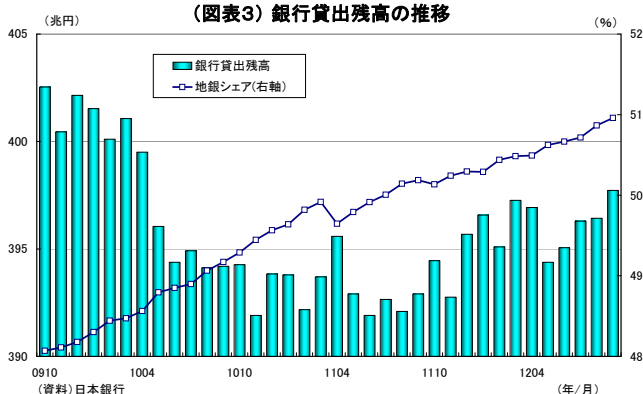
(図表1) 貸出残高の増減率



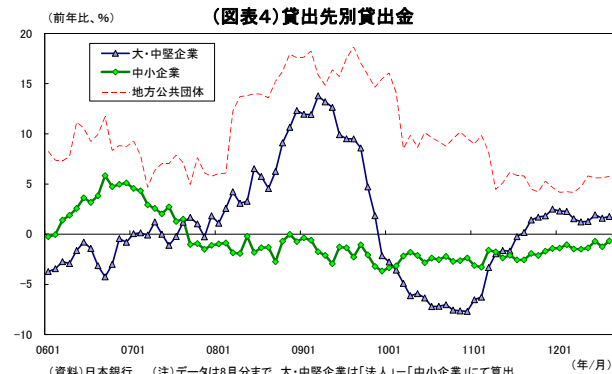
(図表2) 業態別の貸出残高増減率

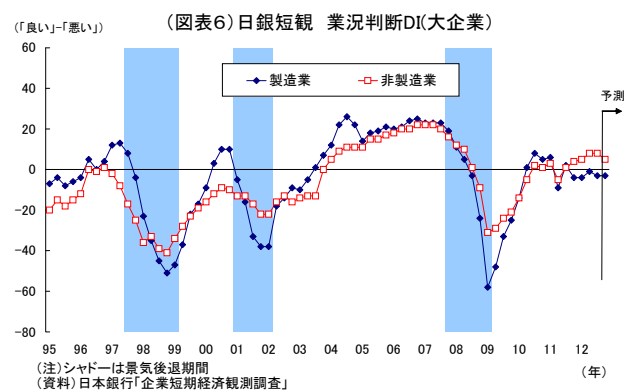
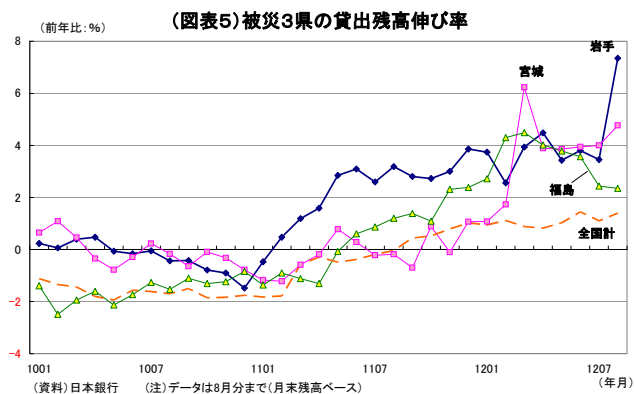


(図表3) 銀行貸出残高の推移



(図表4) 貸出先別貸出金

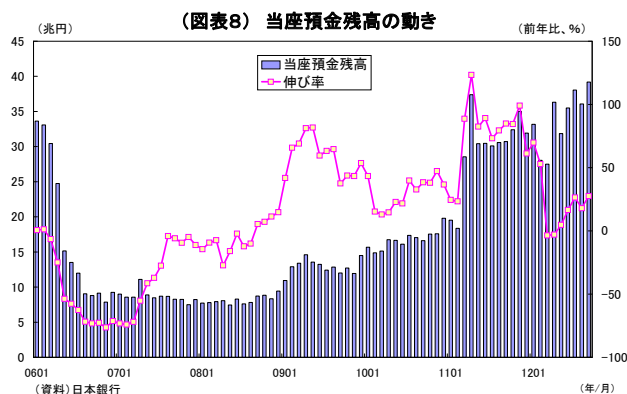
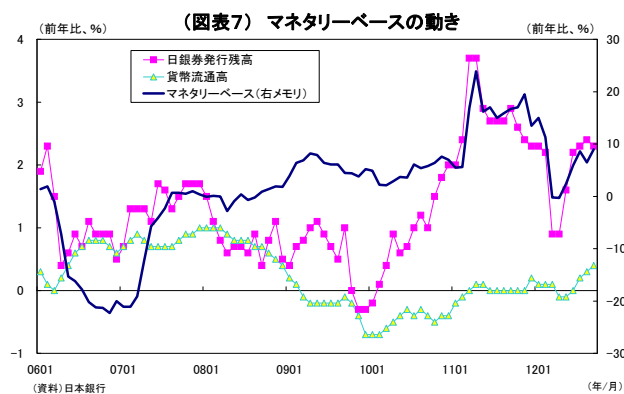




2. マネタリーベース：再び過去最高を更新

日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示す9月のマネタリーベース(平残)伸び率は前年比 9.0%(前月は同 6.5%)と拡大、7ヵ月ぶりの高い伸びとなった。日銀当座預金の伸び率が前年比 27.6%(前月は同 18.0%)と拡大し、マネタリーベースを押し上げた。季節調整済み前月比年率の伸び率で見ても 45.4%と大幅なプラスに。水準では、マネタリーベース残高(平残)が 124.3 兆円、当座預金残高が 39.2 兆円と、ともに2ヵ月ぶりに過去最高を更新した(図表 7,8)。

9月の過去最高更新は、日銀が資産買入れ等によって潤沢な資金供給を行っているうえ、国債の大量償還が重なった影響である。今後も資産買入れ等基金による資金供給が続くため、マネタリーベースは増加基調を維持し続ける見通し。



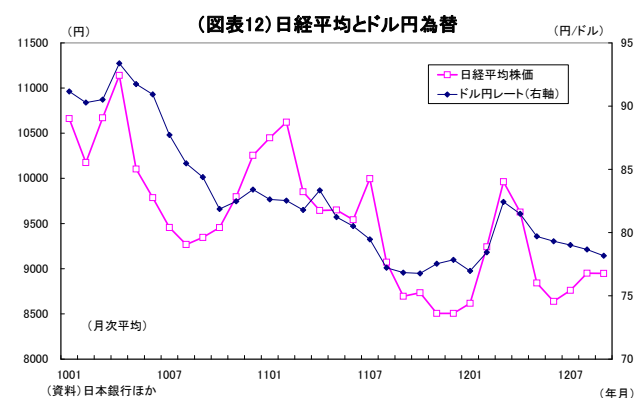
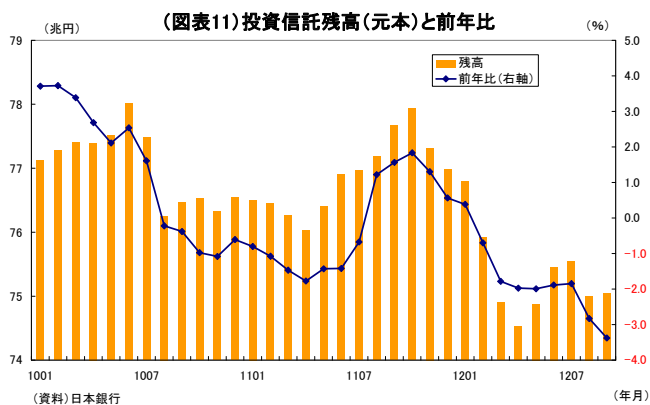
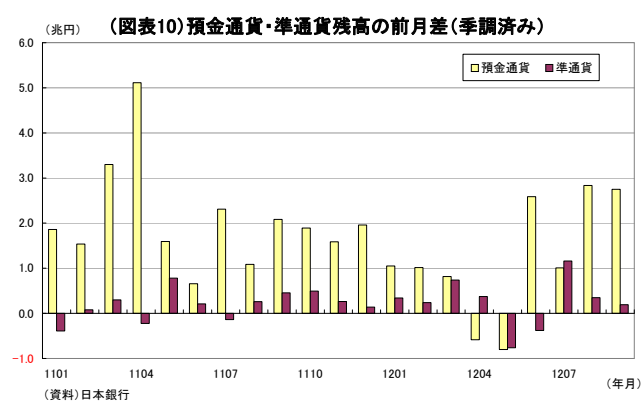
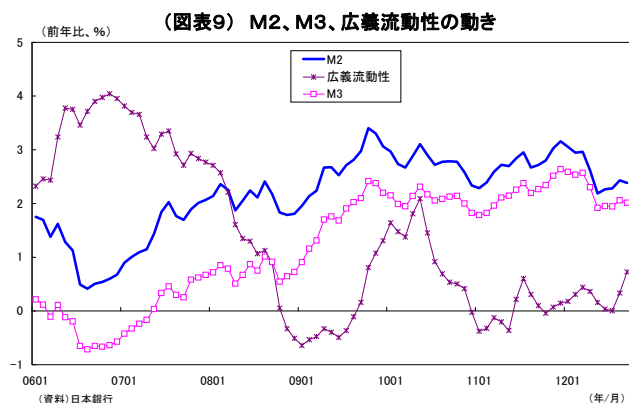
3. マネーストック：投資信託の下落率が最大に

通貨供給量の代表的指標である9月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高の伸び率は前年比 2.4%(前月も同じ)、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同 2.0%(前月は 2.1%)とともに前月からほぼ横ばいとなった。M3に投信や外債などを含めた広義流動性の伸び率は前年比 0.7%(前月改定値は同 0.3%)と伸び率をやや拡大したものの依然低水準に留まっている(図表 9)。

普通預金など預金通貨(季節調整済み)の前月差を見ると6月以降純流入が顕著になっており、残高(季節調整済み)は4ヵ月連続で過去最高を更新し続けている(図表 10)。

一方、投資信託（元本ベース）は8ヵ月連続で前年割れが続いており、9月は前年比3.4%減（前月改定値は同2.8%減）と当統計が逆れる2004年4月以降で最大の下落率を更新している（図表11）。

長引く株価の低迷や円高など投資環境は厳しく（図表12）、マネーのリスク回避的色彩はますます色濃くなってきている。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。